

道路ユーザーネットワーク広場

NETWORK NETWORK NETWORK NETWORK NETWORK NETWORK NETWORK NETWORK NETWORK NETWORK

★三好礼子の★

リニューアルした「道の駅あおき」にて。



三好礼子 エッセイスト・元国際ライター
～http://www.fairytale.jp/～



バイクが溢れた！「第一回公式ペレブア・カフェツーリング」スタートです。



「やったよーっ!」。難所を越えた帰りの保福寺峠でこの笑顔。

稲穂がたわわの信濃路を、32名でツーリングしてきました。20代の頃は100台くらいでよく行ったのですが、この規模を主催するのは30年ぶり。この発端は、カフェにやってくるリターンや初心者ライダーたちに走る楽しみやコツを伝えられればと思うたからでした。近くで介護職に励んでいる治美さんは、2人の子育てがひと段落した時に周りのライダーたちに触発され、25年ぶりにリターン。楽しい!でも、昔と違ってなんだか怖いというので、「いつか一緒にに行こうね」が言葉で。そして佐久市でカフェを営んでいるバイク仲間「きえちゃん」は、新店舗がオープンということで、お祝いを兼ねて行くことに決定。治美さんは100ccのスクーター。同じように

初心者マークの女子が9人ほどいたので、すぐに女子ツー開催に。趣旨は、ポレポレ(ゆっくり)走って親睦を深める。つまり「小さいバイクで頑張っているリターンな女子に夢の中間距離ツーリングを!」だったのですが、なぜか女装した男子も来るといって。結局、「女子部14名(うち男性は5名)」「林道を行く「オフ部11名」「オンロード部7名」の3つに別れていくことになりました。

年齢層は30代〜70代。バイクはスクーター、トレイル&トリアルマシ、アメリカン、レーサーレプリカ、サイドカーと多種多様。メンバーをチェックしていたら次第に燃えて来て、理想のコースを探るためになんと3回もの試走を試みしました。ノリで

お分りのように、みんなポイント思考なので大抵のことほ許してくれと思ふのですが、やっぱりいいコースだとなだめをくれた。信州の雄大な景色、四賀地区の地形のユニークさ、奇つて楽しい道の駅、知らないうちに道や推奨ルートを入れつつ、ちょこっとだけ冒険のトッピング?



いつも独りの四賀キャニオン。一度これをやってみてみたい?



限定解除5人、リターン7人。みんなで走ると楽しかったね!

一チェックポイントへ無事に到着。パーク手前では50メートルほどのオフロード通ると、女子が大騒ぎ。でも、案の定好評。5分ほどの山道を歩き始めると、「聞いてないよー!」「なんですか、コレ」と叫びまくっていたけれど、四賀キャニオン(勝手に命名)

名)に立つと、これもみんな大喜び。シメシメ。ここからは林道部とは別行動。私たちが女子とオン部は長閑な田舎道を通って低い峠を超え、樹木の美しいキャンパスを抜け、大好きな千曲ビューラインで佐久のカフェエへ。3時間100キロの旅は、刻み立てた予定どおりでした。林道部は、鹿を避けたら凹にハマって腰を痛めた者が出るアクシデントで30分遅れ。でも、みんなニコニコしています。平日で道が空いています。たまたまあり、浅間山や美ヶ原が360度望める気持ちのいい道を進んで走るのは、本当に爽快でした。

先頭の私のバックミラーに映る整列したバイクたちの愛おしいこと。最初はレシーブのプラクティスを被らせるほどゆっくりだった初心者スクーターちゃんたちも、帰り道ではそれぞれ成長が見え、つづら折りのでもスムーズに走っていました。「心の壁を超えられた感じ」とは治美さん。気持ちいい時間をたくさん味わって、長く乗って慣れることは、とっても大事。そして、なんとなく走るのでなく、小さな目標を持って少しづつクリアすること。最後に敢えてルートに入れたのは、多くのライダー

が恐れる我が町の保福寺峠。東側の青木村斜面は、舗装路ですが、コケあり、落ち葉あり、真ん中に草あり、細くて土砂が時々流れていて、雨後は水が流れているというまるでオフのような林道(熊もいます)。それよりは走りやすい手前の県道12号線や峠からの下りも合わせると、30キロ。男性でも一人で夜は通りたくないと評判の峠道なので、そこを走って無事にカフェに着いた時の女子の笑顔と言ったら、もう!ああ、企んでよかった!と私も嬉しくてびんびん飛び跳ねてしまいました。かつての東山道の難所だった保福寺峠は、現在も人々に恐れられていますが、そこが重要な参勤交代の道だったことをさり気なく伝えてきたのです。とまれ、上手にクリアした女子たちは、みな「保福寺峠を乗り越えた!」が大きな自信になったよう。元気に164キロの旅を終えたみんなの顔、本当に輝いていました。全員が和気藹々しているのを見て、目的達成の安堵感。とはいえ、一同この台数が走るのはやや無理もある。次は現地集合現地解散のミーティングですね。あれこれやりたいことがどんどん出て来ちゃうバイク虫、手強いです。

九州の散歩道 時代とともに姿を変える「港町」 フリージャーナリスト 湯浅玲子

先目、久しぶりに福岡県北九州市の門司港を訪れました。門司港はJR門司港駅を中心とした、目の前に関門海峡と下関が広がる古くからの港町です。JRの駅舎をはじめ、地区内には歴史的な洋風建築が数多く残り、それを観光に生かした「門司港レトロ」として知られています。

年間200万人が訪れるという美しい街並みを見るべく、観光地化される前の姿を知っている私としては感慨深いものがあります。数十年前の門司港は訪れる人も少ない寂れた港町だったからです。海沿いには赤レンガ造りの古い倉庫が放置され、「歴史的な建造物なのにもしっかり手入れされていない」と思ったことを覚えています。



静かになった港町が再び注目されるようになったのは、1988年に門司港駅舎が国の重要文化財に指定されたからです。駅舎だけでなく、周辺には多くの明

門司港は、明治時代に国の特別輸出港に指定されて発展してきた貿易港です。金融機関や商社、海運会社などが次々に進出し、九州の玄関口として外国航路も就航してしました。出光興産の創業者・出光佐三が最初に会社を設立したのもこの地でした。それが関門トンネルの開通で門司港駅を経由せず本州と行き来できるようになり、さらに第二次世界大戦で貿易が中断するなか、次第に貿易港としての役目を終えゆきま

東側エリアを訪ねてみてくだいたい。庶民も利用する商店街アーケードには老舗の菓子店などがあり、ちょっとした逆襲の味があります。ここから少しづつ整備が進み、新しい観光施設などもつくられて、今では海外からも観光客が訪れる場所となっています。街並はすっかりきれいな高層料亭「三官楼(さんきろう)」が、三階建ての巨大な木造建築物で、現在は観光施設として内部を見学できます。

今、門司港ではこうした下町をめぐる「まちあるきツアー」が人気を集めているそうです。きっと現代人にはレトロな風情が新鮮に映るのでしょう。時代とともに姿を変える古くして新しい街、門司港。来春には門司港駅舎が創建当時のままに復元されて生まれ変わります。

(写真提供:北九州市)

ハット 思いました
とは言え、つま先から頭の先まで、完全にアナログの私の目には、ハイブリッド車、EV車、サイドミラー



暦は秋。十月は衣替え、食欲、読書、運動、収穫、秋祭りなどが、思い浮かびますが、近年は、気候が変動、四季がハッキリしなくなっているように、衣替えにも躊躇します。自分が子供の頃はとか、口にしなから語っている、何だかとも古く時々の人間のように感じしています。古くから言われている通り、時代は変化しつづけます。時が、本物か? クルマは進化しても、飲

必要以上の機械化・サビり運転、ススは人を怠けものにもしびれさせます。自転車は楽に乗る残りの人生を過ごしていかねばならないのですか。反、ながら「アメモモケズ、ユキモナ運転は? ツンアツサニモマケヌ」・ケータイ機は果してあけてやろうと思っ

が、使っている人は全くお粗末。人は、むしろ退化し旬の恵みを頂ながら、